

2014/5/24

日本心理臨床学会第33回春季大会@大分

発達障害児者の特性と支援 — 自己理解の特性を中心に —

九州大学基幹教育院

田中 真理

本日の内容

自己理解の特性を中心に

- ①自己理解：自分らしさとは？自分の特性？
- ②自己評価：自分ができる？自分が好き？
- ③原因帰属：どうしてできる？なぜ、できない？
- ④自己認識欲求：自分って障害？ひとと違う？
- ⑤障害告知をめぐって

①自己理解

滝吉・田中(2005)、田中・廣澤(2007)、田中・中山(2006)、越智(2005)

対象：発達障害者、典型発達者 約900名

CA12～22, IQ67～130

- (1)「自分のことをどんな人だと思う？」 自己理解
- (2)「自分の好きなところ/嫌いなところは？」自己理解
- (3)「5年前/5年後の自分は？」 自己理解
- (4)「どうしてできた/できないと思う？」 原因帰属
- (5)「自分はどのくらいできていると思う？」 自己評価
- (6)「自分のことをどのくらい知りたい？」自己認識欲求

①自己理解

「あなたはどんなひとですか？」

『わりと人見知りするほうです。』

『マイペースな人間だと思う。』

『ひとまえで何かすることは
好きなタイプです。』

『私は女性です。』

『背は高い方です。』

『週に一度はジムに通っています。』

人格
特性

外的特性
身体特性

行動ス
タイル

①自己理解

上位カテゴリー

下位カテゴリー

1) 身体的・外的属性

1. 具体的特徴

2. 抽象的特徴

2) 行動スタイル

1. 活動

2. 能力評価

3. 注意関心

3) 人格特性

1. 内向—外向

2. 分離—愛着

3. 自然—統制

4. 非情動—情動

5. 現実—遊戯

ASD特性

こだわり

(DSM-IV-TR)

特性

5因子

(Big5)

(辻ら, 1997)

①自己理解

上位カテゴリー

1) 身体的・外的属性

2) 行動スタイル

3) 人格特性

自分を
肯定的に
とらえる核

下位カテゴリー

1. 具体的特徴

2. 抽象的特徴

1. 活動

2. 能力評価

3. 注意関心

1. 内向—外向

2. 分離—愛着

3. 自然—統制

4. 非情動—情動

5. 現実—遊戯

例:「5年後も鉄道好きは変わらない」

「円周率100桁言える」

余暇支援の
重要性



対人関係の
広がり

行動スタイル: 注意関心(嗜好、興味、欲求)
～が好き、～が欲しい、～に関心がある

「自分のことをどんな人だと思えますか？」お笑い好きのひとです。このひとことにつきます。

「自分の好きなところはどこですか？」やはり車のナン

バーをみて、
すぐに数式を
作ってしまう
ところです。

・京都 500・
あ 46-49

$$(4+6) \times 5 = (9-4) \times 10$$

自分を
肯定的に
とらえる核



余暇支援

の

重要性

(=強みを伸ばす)
(弱点補強×)

余暇活動を通じた支援

鉄道研究会 喜びを共有したい・・・

IPPONN大喜利大会 ひとを笑わせたい・・・

ゼロテープアートの会 作品をみたい・見せたい・・・

→自己肯定感、自己有能感、
対人関係の広がり・・・

①自己理解

行動スタイル: 注意関心(嗜好、興味、欲求)
～が好き、～が欲しい、～に関心がある

自分を肯定的にとらえる核



余暇支援の重要性

(=強みを伸ばす)

(弱点補強×)

ex) 鉄道研究会 喜びを共有したい・・・

IPPONN大喜利大会 ひとを笑わせたい・・・

→自己肯定感、自己有能感、
対人関係の広がり・・・

本日の内容

自己理解の特性を中心に支援を考える。

- ① 自己理解：自分らしさとは？自分の特性？
- ② 自己評価：自分ができる？自分が好き？
- ③ 原因帰属：どうしてできる？なぜ、できない？
- ④ 自己認識欲求：自分って障害？ひとと違う？
- ⑤ 障害告知をめぐって

本日の内容

自己理解の特性を中心に

- ① 自己理解：自分らしさとは？自分の特性？
- ② 自己評価：自分ができる？自分が好き？
- ③ 原因帰属：どうしてできる？なぜ、できない？
- ④ 自己認識欲求：自分って障害？ひとと違う？
- ⑤ 障害告知をめぐって

②自己評価と自尊心←問いと集団の力

自己評価が高いor低い 両極端

幼児的万能感
極端な被害感

他者評価とのずれ

自己評価と自尊心が分離していない

「これができないけど、でも幸せ」

「いろいろ苦手なところはあるけど、

でもこれが自分」

傷つきやすさ・立ち直りにくさ

本日の内容

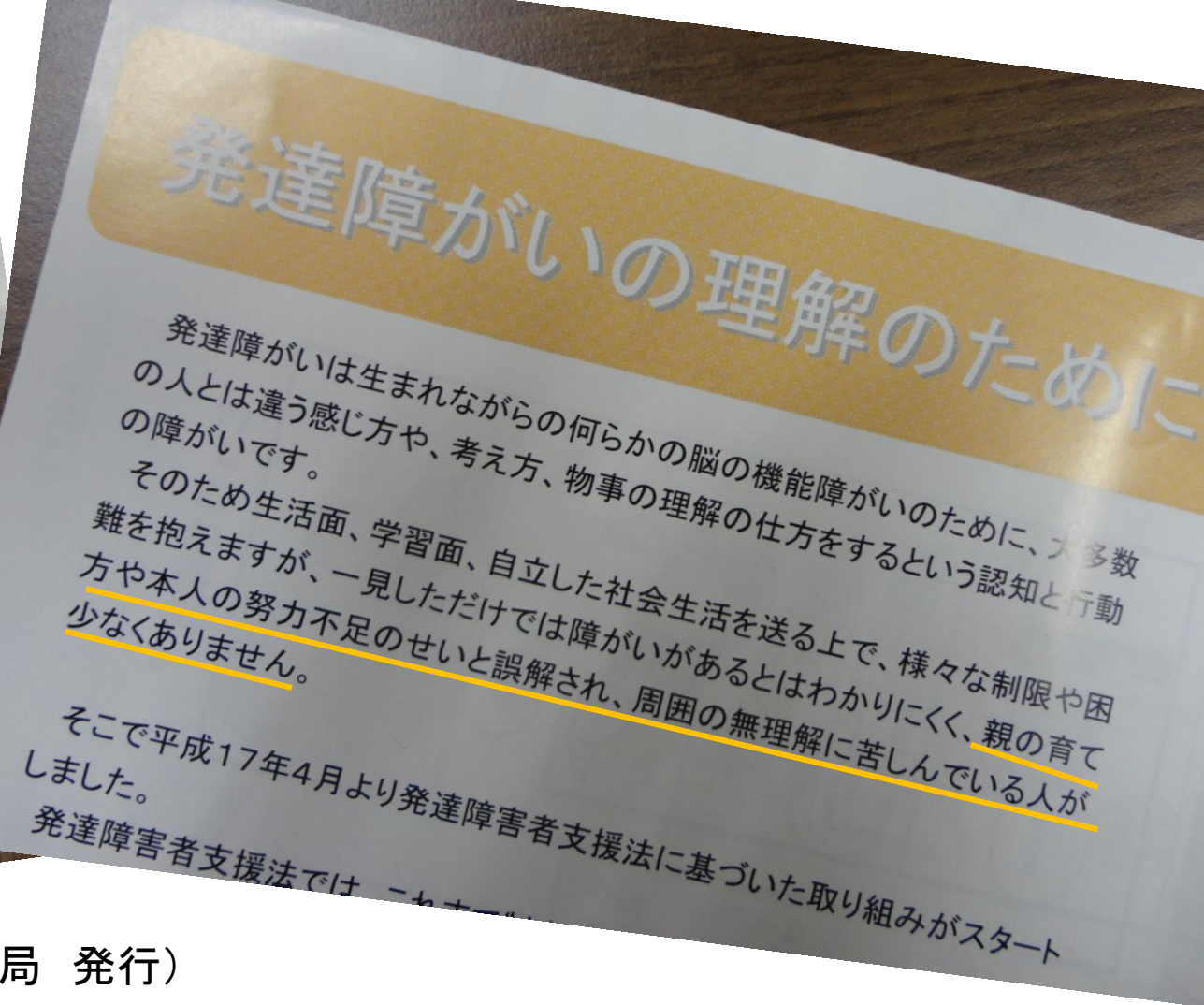
自己理解の特性を中心に

- ① 自己理解：自分らしさとは？自分の特性？
- ② 自己評価：自分ができる？自分が好き？
- ③ 原因帰属：どうしてできる？なぜ、できない？
- ④ 自己認識欲求：自分って障害？ひとと違う？
- ⑤ 障害告知をめぐって

本日の内容

自己理解の特性を中心に

- ① 自己理解：自分らしさとは？自分の特性？
- ② 自己評価：自分ができる？自分が好き？
- ③ 原因帰属：どうしてできる？なぜ、できない？
- ④ 自己認識欲求：自分って障害？ひとと違う？
- ⑤ 障害告知をめぐって



(厚生労働省 社会・援護局 発行)

『…、親の育て方や本人の努力不足のせいと誤解され、

周囲の無理解に苦しんでいる人が少なくありません。…』

うまくいかないのはなぜ？→原因が『努力不足』だと、なぜ苦しむのか？

原因を考える＝

原因帰属

③原因帰属

できる自分/できない自分を
どうとらえるか

うまくいったとき

←もともと自分の能力が高いから

うまくいかなかったとき

←今日はたまたまできなかっただけ。

先生の教え方が悪い！ 問題が悪い！

児童期
AD/HD

→ 他責

努力につながるような理由づけの
積み重ねを！

③原因帰属

できる自分/できない自分を
どうとらえるか

うまくいったとき←今日はたまたまできただけ。
先生の教え方がいい！問題が簡単！

うまくいかなかったとき
←もともと自分の能力が
低いから。何をしても。
いつもこれからも。

成人期D/HD
負の抑うつ的
帰属スタイル

褒める+努力につながるような理由づけ
(事実にふれながら)の積み重ねを！

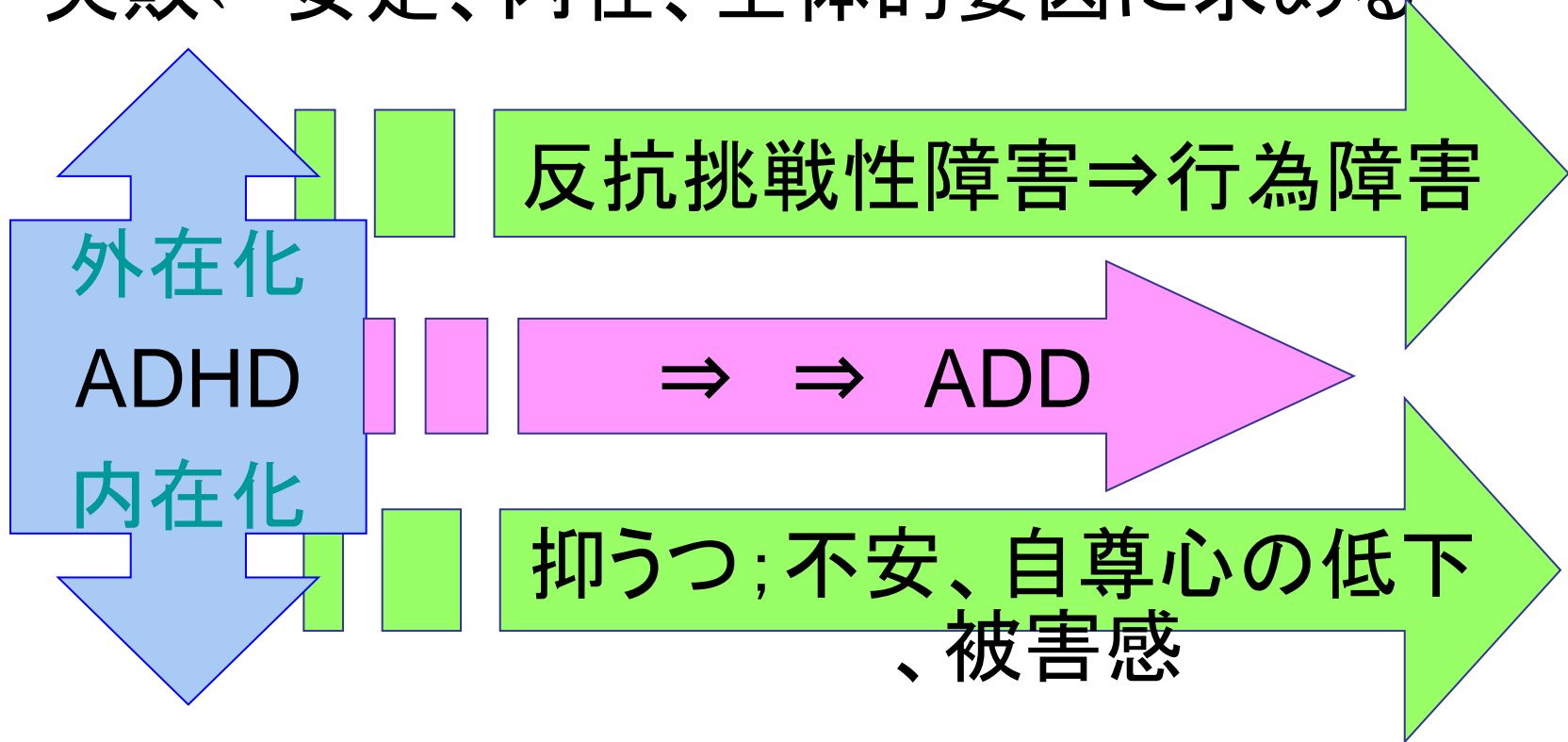
抑うつ傾向の強いひと

正の抑うつ的帰属スタイル

成功←変動、外在、特殊的要因に求める

負の抑うつ的帰属スタイル (Rucklidge, 1999)

失敗←安定、内在、全体的要因に求める



本日の内容

自己理解の特性を中心に

- ① 自己理解：自分らしさとは？自分の特性？
- ② 自己評価：自分ができる？自分が好き？
- ③ 原因帰属：どうしてできる？なぜ、できない？
- ④ 自己認識欲求：自分って障害？ひとと違う？
- ⑤ 障害告知をめぐって

本日の内容

自己理解の特性を中心に

- ①自己理解：自分らしさとは？自分の特性？
- ②自己評価：自分ができる？自分が好き？
- ③原因帰属：どうしてできる？なぜ、できない？
- ④自己認識欲求：自分って障害？ひとと違う？
- ⑤障害告知をめぐって

④自己認識欲求

「自分」への問い→自己理解の深まり

自分にだけ先生がつくのは、おかしい
どうしてこんなに不器用なんだろう？

なぜ病気でもないのに、病院にいかなきゃいけない
んだろう？

特別支援学級って何？出席簿の「情緒」って？

どうして僕はパニックになるんだ？

なりたくないのに、どうしてだろう？

* ASDはAD/HD、LDより後期に自己への問い
＝自分を対象化することが発達的に遅れる

発達障害の

発達期における

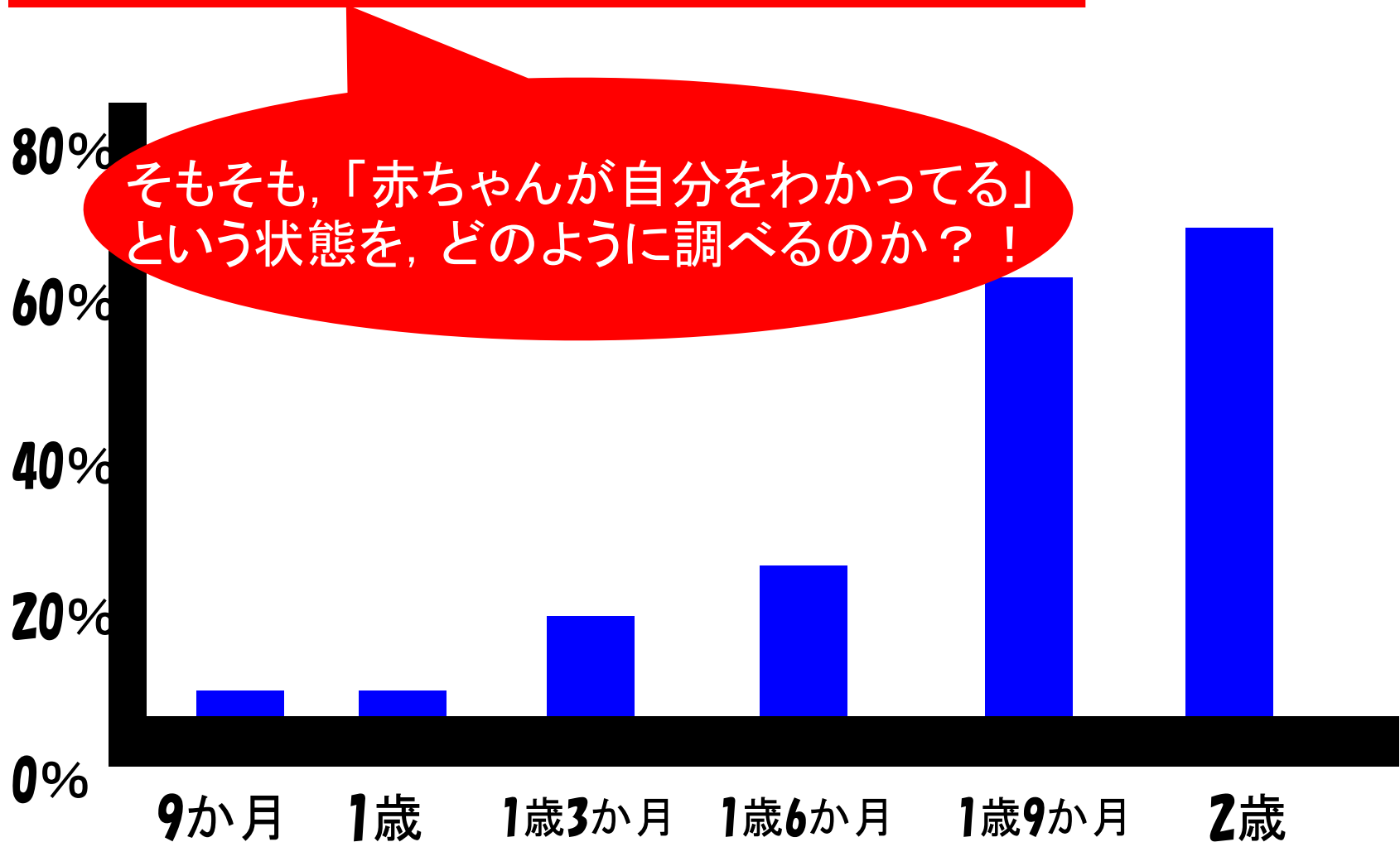
自己理解の特性とは？

= 診断指標のひとつ

自己の対象化：発達の遅れ

例) 鏡映自己、自己顔認知

赤ちゃんが、鏡のなかの自分を 自分だとわかるようになるのは何歳？



ASD児の鏡映自己

ASD児・・・

鏡映自己
遅れる

- 自閉症児15名（平均CA5:5, IQ57.42）中13名（86.7%）が課題通過（Dawson & McKissick, 1984）
- 自閉症児52名（平均CA7:7）中36名（69%）が課題通過（Spiker & Ricks, 1984）
- 自閉症児18名（平均CA5:8）中10名（55.8%）（別府, 2000）

ナラティブの研究から

世界のなかに、どのように「自分」をおくか？

フィクショナル・ナラティブにおける特性とは？

「図をみて、お話をつくってください」

Frog, On his own(Mayer,1973)

(李・田中;2013)

ストーリーに主人公があわれにくい



主体が動いていく



視点が定まらない



出来事について話していても、

主語がわからなくて、

いいたいことがわからない。(李・田中; 2013)

語りを協同構成しながら、
出来事のなかに
自分を中心にした世界を
作っていく
* 幼児期・児童期 *

発達障害の自己理解の特性

- ・自己の対象化の遅れ：鏡映自己
- ・自己の定位の遅れ：ナラティブ

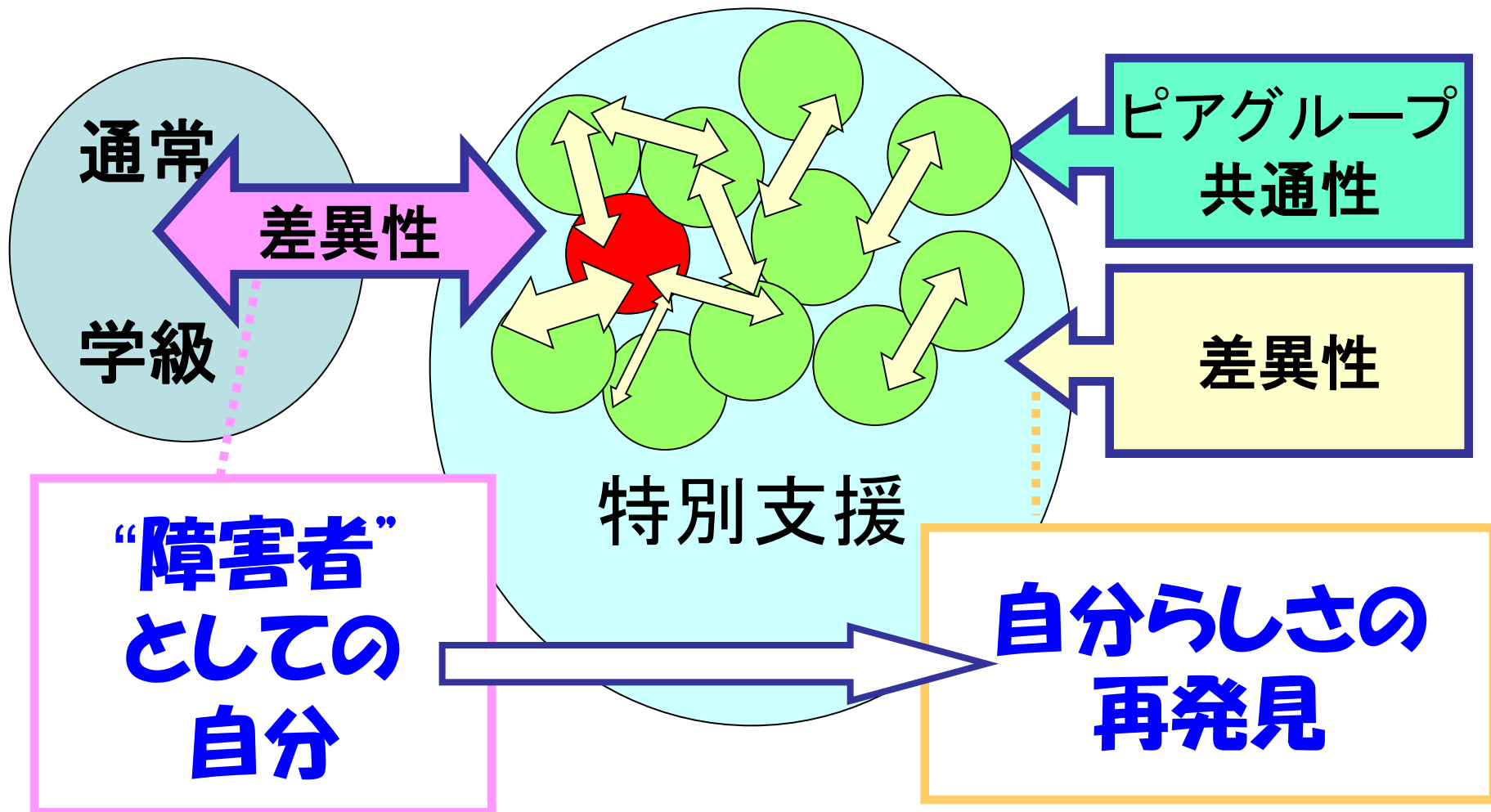
→自己理解の特性に応じた支援
＝「自分を知る」ことへの支援

自分を知るためには？

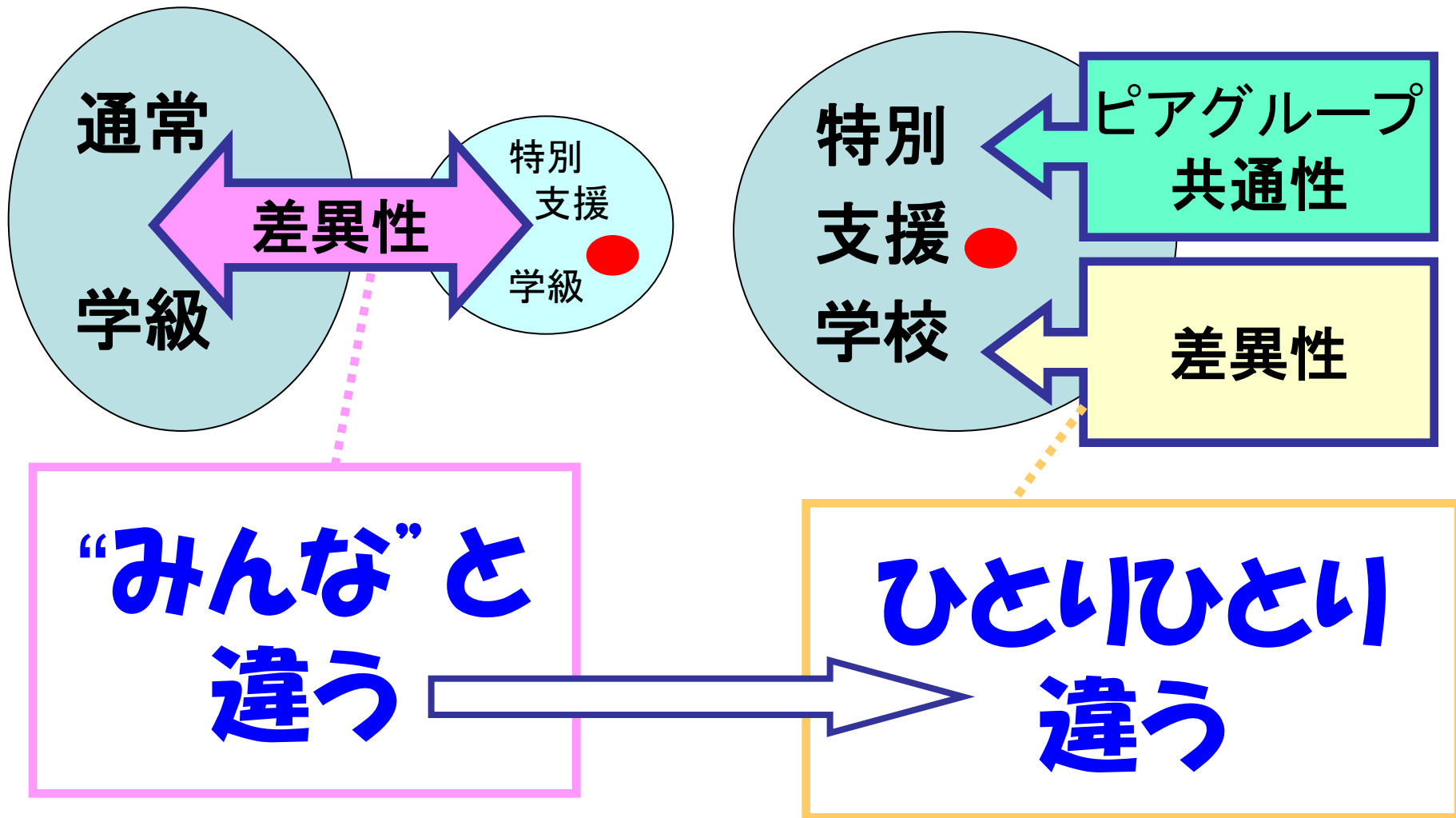
他者と出会う。ひとに関心をもつ。

比較して違いを考える。所属している
集団について考える。 * 思春期・青年期 *

集団の力(他者理解) 特別支援へ⇒
たくさんのピア(仲間)との出会い
そして 自己の統合へ



特別支援学級から支援学校へ⇒
たくさんの仲間との出会い
そして 自己の統合へ



どのような
自分への問いが
うまれるか？

自己に出会う＝障害との出会い

—混乱を整理しつついかに自己形成していくか—

「僕は自閉症なんですか？」「何故うちにこの本が？」

「先生に、普通じゃないから、大学(発達相談)に行きなさいって言われて来たんだ！普通になるとここに来れなくなるんでしょ？」

「この漫画の主人公、何か自分と似てる」

「ここに来るってことは、おかしいってこと？」

「出席簿の表紙に情緒障害？」

「障害者作品展になぜ俺のがあるんだ!!？」

「ここ(支援学校)は障害者だらけじゃないか！

なんでこの学校にきたんだ？」

恐怖

安堵

怒り

落胆

自己への問いの背景

失敗体験の積み重ね

社会的啓発

「なんとなく」大体の人が知っている
聞いたことがある

ネット AQ指数 芸能人の発達障害

(大学の授業で)

マスコミ “バリバラ” ニュース

漫画

本日の内容

自己理解の特性を中心に

- ① 自己理解：自分らしさとは？自分の特性？
- ② 自己評価：自分ができる？自分が好き？
- ③ 原因帰属：どうしてできる？なぜ、できない？
- ④ 自己認識欲求：自分って障害？ひとと違う？
- ⑤ 障害告知をめぐって

自己理解の深まり←自分に対する問い

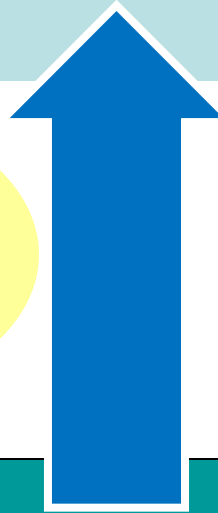
「自分らしさとは何か?」「人と比べて自分はなぜ〇〇なんだろう?」

専門
機関

障害としての
特性

家族

特別な
教育支援
環境



自己認識欲求(自己への問い)への
適切な対応のひとつ=告知

「本人への障害告知の在り様とは?」

本日の内容

自己理解の特性を中心に

- ①自己理解：自分らしさとは？自分の特性？
- ②自己評価：自分ができる？自分が好き？
- ③原因帰属：どうしてできる？なぜ、できない？
- ④自己認識欲求：自分って障害？ひとと違う？
- ⑤障害告知をめぐって

自己への問いへの対応 ＝障害告知

失敗体験の積み重ね

社会的啓発 「なんとなく」大体の人が知っている、聞いたことがある

マスコミ “バリバラ” ニュース

ネット AQ指数 芸能人の発達障害

(大学の授業で)

だからこそ、正確で丁寧な告知のプロセスを！

告知の前提条件①

理解力の発達の問題

「僕はいま自閉症っていう病気にか
かっているんだから、できなくて当たり前
前です！病気が治るまで待ってくだ
さい！」

と周囲に対して堂々と繰り返す

「あらら・・・パラリンピックしか出られな
いじゃないか・・・」

告知の前提条件②障害へのイメージ 「障害」への嫌悪・怖れ

障害＝犯罪者の凶式のなかで

診断名をとらえた事例

「自分もいつか犯罪を起こしてしまうかもしれないから、恐くて外出できない」

「障害は虫けら、最低の人間」

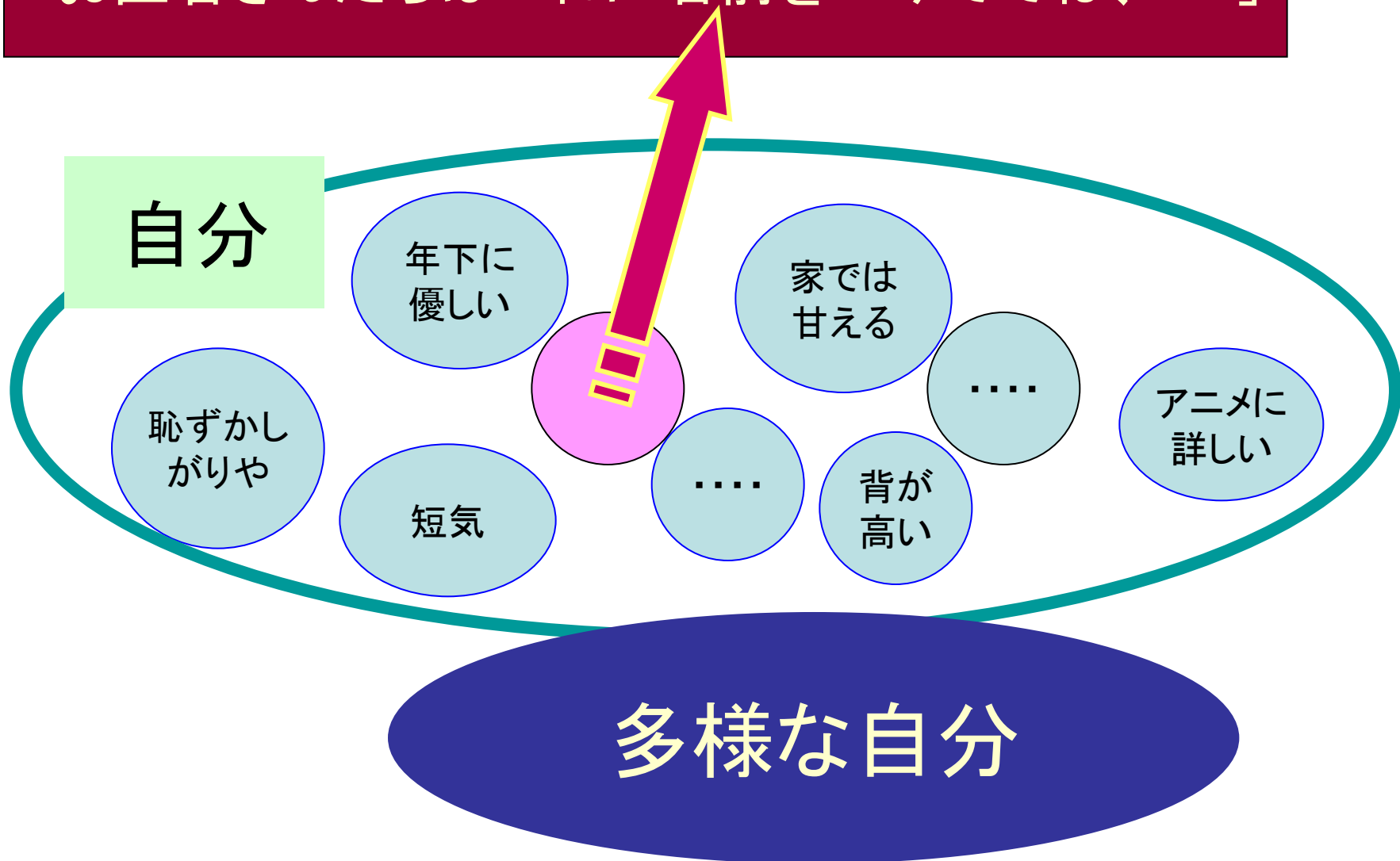
告知の前提条件③自己の多面性理解

「障害は私のすべてではない、
一部である」

「対策を考えるうえではとても
大切な特徴」

自己の多面的側面

診断名として“名前”がついている
「お医者さんたちはこれに名前をつけてね、…」



告知の前提条件④支援環境

親の障害受容<子どもの障害受容

自身でインターネットなどから情報を集め、自分が自閉症ではないかと思い、自閉症としての自分を今後どう生きていくか前向きな取り組み

⇔親：診断名は子ども自身の気づきより前に告知されていたが、受けとめは×

「頑張れば、ちゃんと就職もできるから」

「じゃあ、僕が何かうまくいかないのは一体何なんだ！！！」

告知にあたって:10の配慮点

安易なカミングアウトへの配慮

「ここのなかで、自閉症のひといますか？」

「君も自閉症かな？」 ひとりひとり聞いて回る

障害を努力しないことへの言い訳にしない
仕事で失敗したとき、

「いや～障害があるんで、大目にみてもらわなくては困ります。一応、障害枠での採用なんで」と悪びれることなく上司と交渉

意義ある告知とは

具体的な困難に 対応する技術を持つ

- ① やりようはあるという実感
自分なりの工夫
- ② 長所でもあるという実感
興味の偏り
= 自己概念の中核
予定やルールの融通の低さ
= ルールを変更しては
いけない仕事への適正

自分の特性には 名前がつくと知る (診断名告知)

- ① 罪悪感からの解放や安堵
- ② 「特性」として整理；
知的に整理するキーワード
- ③ 個々の体験の類似性を把握
自分の反応を予測・納得

①自己理解

行動スタイル: 注意関心(嗜好、興味、欲求)
～が好き、～が欲しい、～に関心がある

自分を肯定的にとらえる核



余暇支援の重要性

(=強みを伸ばす)

(弱点補強×)

ex) 鉄道研究会 喜びを共有したい・・・

IPPONN大喜利大会 ひとを笑わせたい・・・

→自己肯定感、自己有能感、
対人関係の広がり・・・

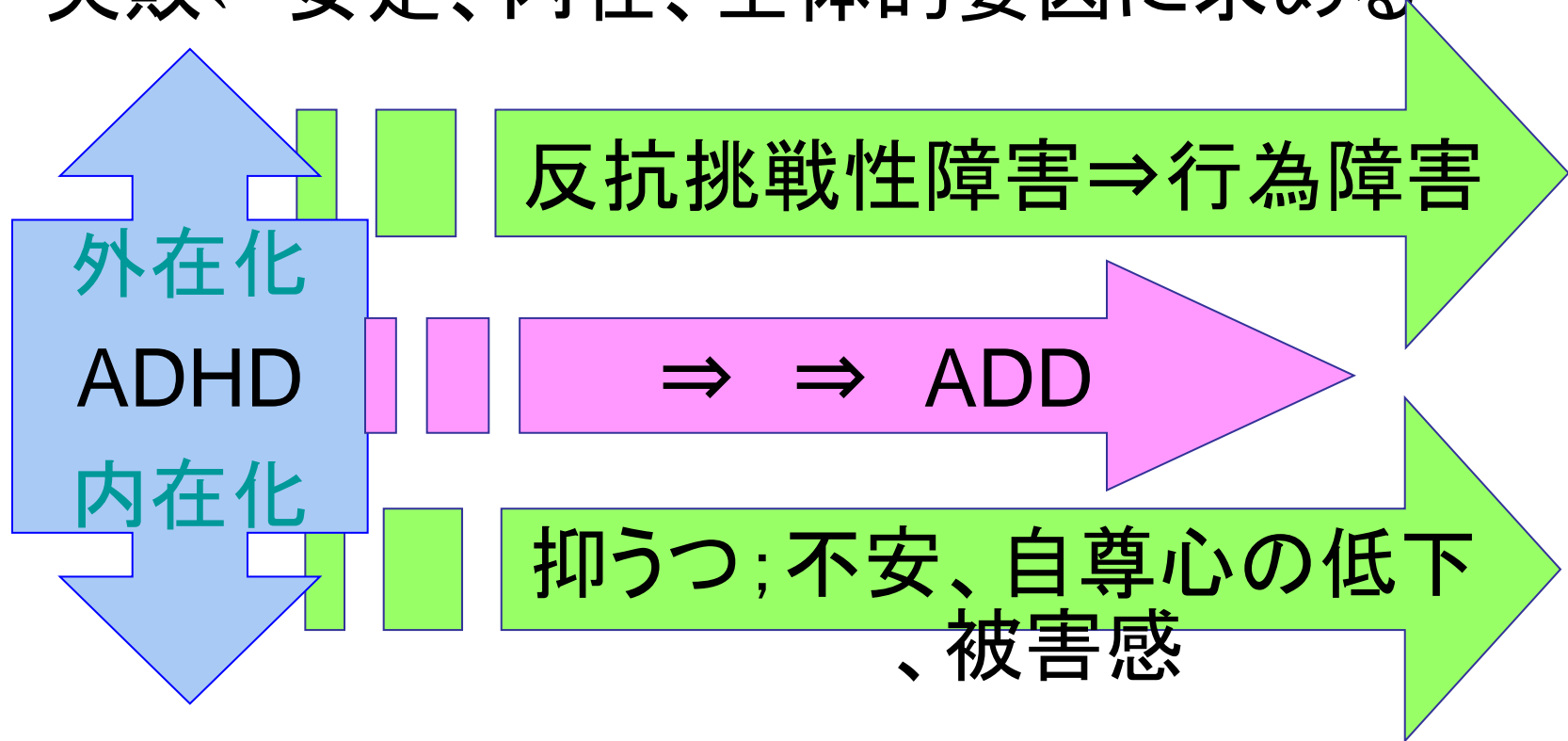
抑うつ傾向の強いひと

正の抑うつの帰属スタイル

成功 ← 変動、外在、特殊的要因に求める

負の抑うつの帰属スタイル (Rucklidge, 1999)

失敗 ← 安定、内在、全体的要因に求める



体験をまとめる線としての自己理解 × → 失敗体験を繰り返す

運動会の騎馬戦：全員が秩序なく動き回る

→「逃げ出したくなるような圧迫感」でパニック
お楽しみ袋が大好きでバーゲンへ

→「叫び出したくなるような不安全感」でパニック

体験の背景に、“ざわざわと動く人の多さに対する苦手さがある”という自己理解 ×

→お祭りに誘われ喜んで行き、再びパニック

本日の内容

自己理解の特性を中心に

- ①自己理解：自分らしさとは？自分の特性？
- ②自己評価：自分ができる？自分が好き？
- ③原因帰属：どうしてできる？なぜ、できない？
- ④自己認識欲求：自分って障害？ひとと違う？
- ⑤障害告知をめぐって：

自分の特性とうまく付き合うために。



Thank you for your kind attention.

◎ 著作権に関して

本講演会記録の著作権は講師の田中真理先生にありますので、引用する際には、次のように引用して下さい。

田中真理(2014) :「発達障害児者の特性と支援 – 自己理解の特性を中心に–」日本心理臨床学会第33回春季大会講演会記録. 一般社団法人日本心理臨床学会